

「江南市人口ビジョン(案)、江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」に関する パブリックコメントの結果について

1. 実施状況

- ・意見の募集期間 平成28年2月2日(火)から3月3日(木)まで
- ・意見を提出された方 3名
- ・意見の件数 23件

2. 意見の概要と市の考え方

(1) 江南市人口ビジョン(案)

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
1	[3ページ] (1)人口動向 ①人口推移 図 江南市の人口の推移	推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」と説明があるが、使用した推計ケースを掲載する必要があります。	推計値の説明として、資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成25年3月推計)」と記載をすることとします。
2	[6ページ] (1)人口動向 ③人口動態 (ア)出生の状況について	使用されたデータは人口1人あたりの出生率を使用しています。即ち0歳児から最高年齢の人を含んだ数となっています。 愛知県下においても、市町村により年齢別の人口割合に大きな相違があります。	「人口1,000人あたりの出生数」は「出生率」と呼ばれていることが多数です。分母の捉え方で割合が変わるため、1人の女性が一生に産む子供の平均数を「合計特殊出生率」とし、異なる時代、集団間の出生による人口の自然増減の比較を可能としています。 地方創生では国の方針として「合計特殊出生率」を人口再生産が可能な水準に保つことで、将来的な人口を適切に維持することを目指すこととしています。 ご指摘いただきました「出生率」は、定義の誤解が生じる可能性があるため、6ページ(ア)中において、文章中及び図のタイトルで記載されている「出生率」については、「人口1,000人あたりの出生数」に修正します。

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
3	<p>[9～15 ページ]</p> <p>(2)地区別人口 動向</p>	<p>(1) コーホート変化率法について説明が欲しい。また、各地区に「H27 年(2015 年)以降は市独自推計値」と記載があるが市独自推計値の算出根拠を記載してほしい。</p> <p>(2) 地区毎の面積、住宅数、店舗数、公共施設数などの各種データを掲載してほしい。</p>	<p>(1) ご指摘のとおり、「コーホート変化率法」の説明を注釈として記載します。また、10 ページ～15 ページの図下の注釈中、「市独自推計値」は、9 ページのコーホート変化率法により推計したものですので、“推計値”に修正します。</p> <p>(2) 各地区において、人口動向の差異があることをお示しするため、地区毎の推計を掲載しています。</p>
4	<p>[14 ページ]</p> <p>(2)地区別人口 動向</p> <p>⑤藤ヶ丘地区</p>	<p>藤ヶ丘地区の人口現状分析と対策が曖昧である。団地は既に50年以上を経ており、更に50年(2060年迄)先までそのまま推移する前提になっている。統計上の数字だけにこだわった「ビジョン」はもっと可能性も加味した想定に見直す事が求められます。</p>	<p>地区別人口動向は、現状を基本として、将来的な人口の見通しを試算したものであり、地区内の個別施設の建替え更新や新たな開発整備などを加味したものではありません。</p> <p>また、人口ビジョンで地区別人口動向を示しておりますが、総合戦略において地区毎に施策は定めておりません。</p> <p>今回の総合戦略においては平成27年～31年までの5か年の計画を示したものであり、全市的な基本目標や基本施策を定めております。</p> <p>なお今後、UR都市機構が管理する江南団地における取組などにより、本市の人口動向に大きな影響が及ぶことが見込まれた段階で、必要に応じて「人口ビジョン」の見直しを行うことが必要だと考えています。</p>

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
5	[16 ページ] (3)人口動向の整理 ②人口構造の特徴	16 ページには「●他の地区においても、将来的に老年人口は減少傾向になります。古知野地区、宮田地区、草井地区では、平成 72 年(2060 年)時点で、現状の 40%から 50%程度、老年人口が増加することが見込まれます。」と記載をされています。 しかし、19 ページの表「江南市の将来人口推計値一覧における地区別の推計値」では、平成 27 年(2015 年)と比較し、老年人口の推移は減少傾向ではなく「微増→増加→微増」となっています。	10 ページから 14 ページの各地区のグラフの中で、各地区とも、65 歳以上人口(老年人口)の実数は、平成 57 年(2045 年)頃まではおおむね増加しますが、以降、減少する推計となるため、全市的におきましては減少傾向となります。
6	[16 ページ] (3)人口動向の整理 ③人口動態の特徴	「生産年齢人口、とりわけ 15～19 歳の転出超過が顕著」とありますが、転出入者アンケート調査結果により転出した詳細の事由は導けないでしょうか。	今回の転出入者アンケート調査実施が 6～7 月であったことから、当該理由での転出者は少ないものと考えられ、調査結果における 19 歳以下も約 3%(4 人)にとどまっているため、確認するに至っておりません。
7	[17 ページ] (2)推計結果の分析 [18 ページ] 表 将来人口の比較	17 ページ(2)の説明を理解するために相当な時間を費やしたので、推計結果をまとめた 18 ページの表「将来人口の比較」を工夫していただきたい。	17 ページ(2)で記載されている説明や数値が理解いただきやすいよう、18 ページの表「将来人口の比較」の記載方法を工夫します。
8	[22 ページ] 3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析	「出生率の低下に伴う子どもの減少」の要因に結婚率の低下があります。	国の人口ビジョンの基本的視点に、“「晩婚化」又は「非婚化」が我が国の出生率の低下の大きな要因”とあるように、子どもを増やすために晩婚化を改善することが重要であり、そのために、まず未婚者を減らすことが重要、との観点から、未婚率の推移を整理しています。この結果から、晩婚化の進展状況が明らかになっていると考えています。

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
9	[24 ページ] (1)結婚・出産・子育てに関する事項 ①結婚 図 江南市の年齢階級別未婚率の推移	図は未婚率の推移が掲載されていますが、結婚率として男女別で表記した方が理解しやすいと思います。	「未婚率」の図は、国が少子化の一因が「晩婚化」にあるとの見解から、晩婚化の動向を端的に示したものとして掲載しています。 また、男女別に晩婚化が進んでいる状況を分かりやすくするため、男女を同じグラフ上に示し、“男女とも晩婚化が進んでいること”“男性の方が女性より晩婚化が進んでいること”を示しています。
10	[26 ページ] (2) 産業・雇用に関する事項 ②産業別就業状況 (図)	図の説明「江南市における男女別産業別就業状況」は、江南市内に所在する事業所に就業する江南市民のことか、または、就業地は問わず江南市民が就業する産業別の状況であるのかを明確にしてほしい。	江南市在住の就業者を表したものですので、図の説明を「江南市に在住する就業者における産業別就業状況」に修正します。
11	[29 ページ] (5) 財政に関する事項 図 江南市および近隣市町の一人当たり地方税の推移	平成 25 年度の財政状況は平成 27 年 3 月に総務省から公表されています。また、平成 26 年度は本年 3 月に公表されます。最新データを含んだ値としてください。	ご指摘のとおり平成 25 年度の財政状況も掲載します。

	案の箇所	意見の概要	市の考え方
12	[34ページ] 3人口の将来展望	<p>人口増加を前提とする考え方を根本から改める。具体的には「人口の将来展望」の中に記載された合計特殊出生率並びに純移動率の「誘導」策を削除する。憲法上の国民の権利（居住・移転の自由や婚姻の自由等）に制限を加える方針を示す事自体、否定されなければならない。「産めよ、増やせよ」のかつての国家主義の誤りを繰り返す事になりかねない。また出生率を1.42から1.80、2.07に「誘導」する数値も、実態からかけ離れ間違った「希望」であり、この方向に行政を進めるのは論外です。</p>	<p>「人口の将来展望」においては、人口減少が地域経済に及ぼす影響が大きいとの認識の下、現状の人口減少の要因である出生数の減少や転出の増加をいかに抑制できるかの考えから、合計特殊出生率並びに純移動率の将来的な想定を行った上で、将来的な人口の見通しを示したものとしています。</p> <p>ただし、合計特出生率の向上や純移動率の改善などは、過去の実績からみて無理のない範囲として想定しており、合わせて、個人の権利・自由を損なったり、強制したりするものではなく、希望する人が出産でき、永く定住できるような施策を講じることが重要であるため、総合戦略における様々な取組の効果として期待しています。</p> <p>こうした考え方は、国の長期ビジョン・総合戦略に沿ったものであり、今回、江南市が策定した人口ビジョン・総合戦略についても、「まち・ひと・しごと創生法」並びに国から提示された「策定のための手引き」に準じた考え方としています。</p>

(2) 江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
1	[2ページ] 1 総合戦略策定の背景	「地方と東京圏の経済格差拡大等により、若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中を招いています。」とあります。「若い世代の地方からの流出」により「東京圏への一極集中」されていると解釈できますし、「若い世代の地方からの流出」と「東京圏への一極集中」は別ものとも解釈できます。	東京圏に限り、地方から若い世代が流出しているのではなく、地方から流出しているのは若い世代に限ったことではないため、「若い世代の地方からの流出」と「東京圏への一極集中」は、ご指摘いただいた別のものとなります。
2	[3ページ] ■「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要 図 将来人口推計（総人口）	将来人口推計（総人口）に前提条件を入れてください。	愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載された前提条件となります。詳細については、愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略を参照頂くことが適切と考えます。
3	[9ページ] 3 課題整理 (1) 新たな人の流れに関する ことの課題欄	「安心・安全なまちであることの周知・PR」では、建物火災出火件数、交通事故発生件数、刑事犯認知件数を人口で除した率は、愛知県市町村平均より低いので、参照していただきたい。	ご意見頂いたように今後、取組・事業を行っていく上で様々な視点から分析し、市民の皆様にはわかりやすい形で取組・事業の効果を把握し、進捗管理を行っていく予定としています。
4	[9ページ] 3 課題整理 (2) 結婚・出産・子育てに関する こと	結婚について、現状欄、課題欄共に記載されていません。出生率上昇には「社会圧力ではなく、夫婦による子育ての喜びが、子育てに伴って失う物のコストを上回る社会を実現すること」が必要と説く学者等もみえます。行政サイドが出生率について触れることは困難であることは予想できますが側面から「婚活活動の支援」が必要と考えます。	江南市の未婚率の推移を男女別年齢階級別にみると、特に、男女とも30～44歳において上昇傾向にあります。 市内では、江南商工会議所等が婚活事業を継続して実施しております。市では、広報こうなんで参加者を募集する記事の掲載を行うなど支援を行っています。

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
5	[10 ページ] 3 課題整理 (3) 仕事に関する こと	平成 25 年度市民意識調査で「雇用の場・機会の多さ」が低い・やや低いと回答する者が 70%超過しています。この結果を現状欄及び課題欄に追加し検討されることを望みます。	現状欄には、「働きながら子育てでできる仕事がないため働くことができない方がいる」という具体的な現状を記載しています。 なお、課題欄には、＜雇用力の強化＞に「市内就業の場を確保」として、上記の現状に対応した課題を記載しています。
6	[12 ページ] 1 総合戦略コンセプトおよび基本目標 ■コンセプト	(1) 「①子育て環境の充実を図り、出生率の向上による自然増の確保」に、合計特殊出生率を将来的に平成 32 年 (2020 年) 平成 42 年 (2030 年) に「1.80」、平成 52 年 (2040 年) に「2.07」を追記が必要です。 (2) 「平成 72 年 (2060 年) において将来人口 8 万人程度の維持を目指すものとする。」に、将来人口 8 万人程度 (年少人口≒15%、生産年齢人口≒54%、高齢人口≒31%) 追記が必要です。	人口減少抑制のための条件設定については、人口ビジョンに記載していますので、基本的には人口ビジョンを参照頂きたいと考えます。
7	[13 ページ] 1 総合戦略コンセプトおよび基本目標 ■基本目標	江南市が考える「コンパクトシティ構想」の簡単な解説を入れてください。	市独自の構想を持ち合わせているのではなく、国が取り組んでいる「地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進める」とするコンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方を意識し、人口減少や高齢化など、人口構造の変化に対応できる、将来的に持続可能な地域のあり方を見据えたまちづくりにつなげてまいりたいと考えています。
8	[17～34 ページ] 第 4 章 目標達成のための取組と K P I	新規事業の目標達成を確実にするために取組の開始時期 (又は完了時期) 入れてください。	総合戦略は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間の計画期間としており、新規事業については、計画期間中の着手が可能な事業から実施していくことで、施策効果の早期発現を目指していきます。

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
9	<p>[18～19 ページ]</p> <p>基本施策 1 -①江南の優位性を活かした生活環境づくり</p>	<p>駅周辺の整備に関して、駐輪場の充実を切に願います。駐輪場まで来たものの満車で置く場所がなく、長時間、自転車を置く場所を探すなど、駐輪場で途方に暮れる若者の姿を目にして心が痛みます。</p> <p>また、最も近い駐輪場が駅から徒歩3分程と非常に遠いと思います。市営駐輪場をもっと駅の近くへ作る、今ある駐輪場を2階建てにするなどして面積を増やすなど、駐輪場の充実をお願いします。</p>	<p>江南駅周辺の無料駐輪場については、特に江南駅北と北第二の駐輪場が大変混雑しておりご迷惑をお掛けしています。市では現在、駅周辺に立体駐輪場の計画はありませんが、無料駐輪場に長期間止めてある自転車を定期的に撤去し、駐輪スペースを少しでも確保できるよう努めておりますのでご理解いただきますようお願いいたします。</p>
10	<p>[22～25 ページ]</p> <p>基本目標 2 : 子育てしやすい環境づくり</p>	<p>“結婚したくてもできない”、“産みたくても産めない”等の原因を突きとめ、障害を取除く作業は「個人の尊厳」を守るための行政的な最重要課題として最善を尽くす事を明記する。人口の増減は、こうした努力の結果として受け止めるべきであります。</p> <p>・1974年国連・人口会議で採択された「家族計画」では女性の自己決定権を尊重する「性と生殖の健康と権利」を採用し、個人の尊厳を保障し国家主導型の「計画」から脱却している。個人の意見の尊重は、憲法上でも国際的にも大前提とすべきであり、この立場からの行政アプローチこそ人口問題の基本とすべきである。</p>	<p>ご指摘のとおり、結婚・出産・子育て等については、個人の権利・自由を尊重することが前提となります。</p> <p>個人を尊重し、選択の自由を社会全体で支えていくために必要となる仕組みづくりを押し進められるよう、総合戦略による取り組みを実施していきます。</p>

No.	案の箇所	意見の概要	市の考え方
11	[全体について]	<p>人口減少が不可避と想定されたなら、それに従って発生する住民生活上の課題に目を向け、対応に万全を期すことを明記すべきである。対策に不徹底さが見られる。</p> <p>例えば、“児童の安全・安心な放課後の居場所が求められている”としつつ放課後子ども教室の増設は“順次進めます”としています。安全・安心を目標とするのなら“順次”ではなく“一気に”とならなければなりません。それとも、安全・安心は掛け声だけで、“やれるだけやればいい”との思惑があるのでしょうか。課題と解決策の優先度を明確にし、必要なものは“一気に”、メリハリが必要です。</p>	<p>ご指摘のように総合戦略の各種取組・事業については、基本目標、基本施策の早期効果発現が期待される取組・事業を優先的に実施していくこととしています。</p> <p>このため、総合戦略の4つの基本目標で定めた数値目標を達成するため、重要業績評価指標（KPI）を定めており、施策効果の確認を行いながら取組・事業を進めてまいります。</p> <p>総合戦略は、平成31年度まで毎年度検証を行い、その間、必要に応じて取組内容の見直しを行うことにより、より実態に即した、メリハリのある取組・事業を推進していくこととしています。</p>